

HS 46, 56

***STIHL***



2 - 21      取扱説明書



## 目次

1	はじめに.....	2
2	使用上の注意および作業方法.....	2
3	本機の使い方.....	7
4	燃料.....	8
5	給油.....	9
6	エンジンの始動と停止.....	11
7	作業中の注意事項.....	13
8	エアフィルターの掃除.....	14
9	キャブレターの調整.....	14
10	スパークプラグの点検.....	14
11	ギヤーボックスの注油.....	15
12	機械の保管.....	16
13	目立ての注意事項.....	16
14	整備表.....	17
15	磨耗の低減と損傷の回避.....	18
16	主要構成部品.....	19
17	技術仕様.....	19
18	整備と修理.....	20
19	廃棄.....	20
20	EC 適合証明書.....	21
21	UKCA 適合宣言.....	21

## 1 はじめに

## 1.1 シンボルマークについて

機械に表示されているシンボルマークの意味は、本取扱説明書に説明されています。

対象の機種によっては、以下のシンボルマークが機械に表示されている場合があります。



燃料タンク、ガソリンとエンジン オイルの混合燃料



パージャーポンプの操作



ギヤー グリース用注入口



ブレード ロック



回転式ハンドル



## 1.2 段落の前に付いたシンボルや数字



警告

人に及ぼす事故やケガ、更に重大な物的損傷に対する警告。

注記

本機本体あるいは構成部位の損傷に対する警告。

## 1.3 技術改良

当社の信条として、常に自社製品の改良を心がけております。この理由から、製品の設計、技術、外観が定期的に改良される場合があります。

このため、変更、修正、改良の種類によっては、本取扱説明書に記載されていない場合があります。

## 2 使用上の注意および作業方法



このパワーツールでは、鋭利なツールと高速ブレードを使用するため、作業には特別な安全対策が必要です。



初めて使用する前に、必ず全ての取扱説明書をよく読んで理解し、必要な時に見られるように安全な場所に確実に保管してください。取扱説明書を順守しなければ生命を脅かすような怪我を負う可能性があります。

同業組合、社会保険組合、労働安全衛生当局など、現地の安全規制を遵守してください。

初めてパワーツールで作業する場合：サービス店または経験豊富なユーザーに機械の操作方法についての説明を受けるか、その専門的な研修に参加してください。

未成年者はパワーツールを使用しないでください。ただし、監督下で訓練を受けた 16 歳以上の未成年者が作業する場合にはこの限りではありません。

作業場所に子供、動物、見物人を近づけないでください。

パワーツールを使用しない時は、他人に危険が及ばないように、スイッチを切ってください。パワーツールが無断で使用されないように、安全に保管してください。

他者およびその所有物に対して生じた事故または危険に関しては、その一切の責任をユーザーが負います。

油圧機器は、  
印刷インクには植物油が使用され、  
紙はリサイクル可能紙です。

© ANDREAS STIHL AG & Co. KG 2022  
0458-447-4321-D-VX0 E22.

パワーツールは、本モデルとその取扱いに精通している人へのみ譲渡または貸与し、取扱説明書を必ず一緒に手渡してください。

騒音を発するパワーツールの使用が、国や地域の規制により使用時間が制限される場合があります。

パワーツールで作業をする人は、十分に休息をとり、心身ともに健康で良好な状態でなければなりません。

健康上の理由で無理ができない人は、パワーツールを使った作業が可能かどうか、かかりつけの医師に相談してください。

ペースメーカーを付けている方へのみ該当する注意点：本パワーツールのイグニッションシステムでは、微量の電磁界が発生します。個々のペースメーカーの種類への影響を完全に排除することはできません。健康上のリスクを軽減するため、ペースメーカーを装着された方は、パワーツールの使用前にかかりつけの医師またはペースメーカーの製造元に、お問い合わせください。

アルコールや反射神経速度を鈍らせる可能性のある薬品あるいは薬物を服用した状態では、パワーツールを操作しないでください。

パワーツールは、生垣、低木、茂みや灌木などを切断するためのみに使用してください。これ以外の目的には使用しないでください - **事故の恐れがあります！**

製品に変更を加えないでください。こうした行為も事故やパワーツールの破損につながる可能性があります。

STIHL が本パワーツールでの使用を承認した、または技術的に同等のカuttingブレードやアクセサリーのみをご使用ください。これに関してご不明な点がございましたら、サービス店にお問い合わせください。高品質のツールまたはアクセサリーのみを使用してください。さもないと、事故やパワーツールの破損の恐れがあります。

STIHL は、STIHL 純正のツールとアクセサリーのご使用をお勧めします。これらは、お客様の製品およびご使用になる性能要件に合わせて、特別に設計されています。

安全性が損なわれる可能性がありますので、いかなる方法でも機械を改造しようとししないでください。STIHL は、承認されていないアタッチメントを使用した際の人的傷害および物的損害に対しては一切保証を行いません。

本機の清掃に高圧洗浄機を使用しないでください。強力な水の噴流が、本機の部品を損傷する恐れがあります。

## 2.1 衣服と装備

規定に沿った衣服と装備を身に付けてください。



衣服は、適切なもので、作業の妨げにならないことが必要です。作業用のコートではなく、身体にぴったりしたコンピスーツの作業服を着用してください。

枝、藪、機械の可動部などに引っかかるものを、身に付けしないでください。スカーフ、ネクタイ、装身具を身に付けしないでください。長い髪はまとめて、肩より上になるように固定します。

靴底が滑らず、頑強な作りの靴を履いてください。



**警告**



目の負傷の危険性を低減するため、EN 166 基準に準拠したしっかりとフィットする保護メガネを着用してください。保護メガネが正しくフィットしていることを確認してください。

「自分専用」のイヤープロテクター（例えば防音用耳栓）を着用してください。



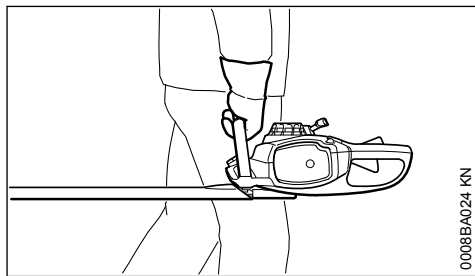
耐久性の高い素材製（革など）の作業用手袋を着用してください。

STIHL では、作業者の防護のために各種の作業服や装備をご用意しています。

## 2.2 パワーツールの運搬

常にエンジンを停止します。

運搬する場合は短い距離であってもブレード鞘を取り付けてください。



カuttingブレードが後ろ向きになるようにパワーツールのハンドルを持って運びます。高温の機械部品、特にマフラー表面とギアハウジングには触れないでください - **火傷する危険があります！**

車両を使用して運搬する場合：パワーツールが倒れたり、燃料が流れ出たり、破損しないように、固定してください。

## 2.3 給油



ガソリンは非常に引火しやすい物質です - 火気のそばに置かないでください - 燃料をこぼさないでください - 喫煙しないでください。

給油前にエンジンを停止してください。

エンジンがまだ熱いうちは給油しないでください - 燃料が流れ出て、火災を起こす危険があります！

燃料タンクキャップは、過剰な圧力が徐々に抜けて、燃料が噴き出さないように、慎重に開けてください。

給油は風通しの良い場所で行ってください。燃料がこぼれた場合はパワーツールの清掃を行ってください - 衣服に付いた場合は直ちに着替えてください。




折りたたみ式ブラケットの付いた燃料タンクキャップ（パイオネット式）を正しく差し込み、リミットストップまで回してから、ブラケットを折りたたんで閉じます。

これにより、エンジンの振動により燃料タンクキャップが外れ、燃料が漏れ出すリスクを低減することができます。

燃料が漏れていないか確認する - 燃料が漏れている場合、エンジンを始動させないでください - 火傷による命の危険があります！

## 2.4 始動前

パワーツールが操作の安全性を確保できる状態であることを確認します - 本取扱説明書の関連項目を参照してください：

- 燃料システムに漏れがないか点検します。特に燃料タンクキャップ、ホース接続部、手動燃料ポンプ（手動燃料ポンプ付きのパワーツールの場合のみ）などの目に見える部品を特に注意深く点検します。漏れや損傷がある場合は、エンジンを始動しないでください - **火災の危険があります！** 使用を開始する前に、機械の修理点検をサービス店に依頼してください。
- マスターコントロールレバーは、STOP または 0 の方向に簡単に操作でき、その後自動的に作動位置 I に戻らなければなりません。
- マスターコントロールレバー、スロットルトリガーロックアウトおよびスロットルトリガーは、スムーズに動作しなければなりません - スロットルトリガーは自動的にアイドル位置に戻らなければなりません。スロットルトリガーロックアウトとスロットルトリガーを同時に押すと、マスターコントロールレバーが  の位置から、自動的に作動位置 I に戻らなければなりません。

- スパークプラグターミナルがしっかりと差し込まれているかチェックします - 緩んでいる場合は火花が発生することがあり、燃料と空気の混合物に引火する可能性があります - **火災の危険があります！**
- カuttingブレードが完璧な状態（清潔、滑らかに動作、変形なし）で、しっかりと固定され、正しく組み立てられており、再研磨され、STIHL 樹脂溶剤（潤滑剤）が吹き付けられていなければなりません。
- 切断保護（ある場合）に損傷がないか点検します。
- 操作部や安全装置に変更を加えないでください。
- ハンドルはオイルや汚れのない清潔な乾いた状態に保ちます - これはパワーツールを安全に操作するために重要です。

パワーツールは、操作の安全性が確保されている状態でのみ操作することができます - **事故の恐れがあります！**

## 2.5 エンジンの始動

給油場所から少なくとも 3 m 離れていること - 屋外に限ります。

必ず平らな場所に置いて、しっかりとした安全な足場を確保し、パワーツールをしっかりと保持してください - 始動時にCuttingブレードと一緒に動作することがあるため、Cuttingブレードが物や地面に触れないようにしてください。

パワーツールは一人で操作し、他の人は作業エリアに立ち入ることはできません - 始動時も厳守してください。

Cuttingブレードに触れないでください - **ケガをする危険があります！**

エンジンの「落としがけ」はしないでください - 取扱説明書に従って始動してください。

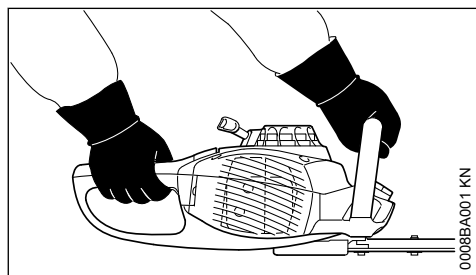
スロットルトリガーを放した後もCuttingブレードが短時間動き続けます - **ランダウンタイムに注意！**

エンジンのアイドルリングを確認：スロットルトリガーを放した状態でエンジンをアイドルリング運転しているときは、Cuttingブレードが停止している必要があります。

## 2.6 機械の保持と制御

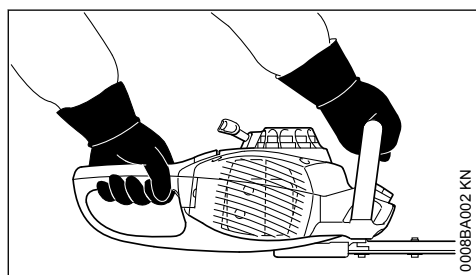
必ず両手でハンドルを持ってパワーツールを保持します。親指でハンドルをしっかりと握ります。

## 2.6.1 右利き



コントロールハンドルを右手で、ハンドルバーを左手で握ります。

## 2.6.2 左利き



コントロールハンドルを左手で、ハンドルバーを右手で握ります。

カッティングブレードが常に身体から離れているように、しっかりと立ってパワーツールを駆動してください。

## 2.7 作業中

差し迫った危険や緊急時には、直ちにエンジンを停止します－マスターコントロールレバーをSTOPや○の方向に操作します。

作業エリアに誰もいないことを確認してください。

カッティングブレードに注意します－生け垣の见えない部分は切らないでください。

高い生け垣をカットするときは、背後に人がいる可能性があるので、十分に注意してください－事前に確認してください。

スロットトリガーを放した時にカッティングブレードがそれ以上動かないように、エンジンが正しくアイドルしていることを確認してください。

それでもカッティングブレードが動いている場合は、サービス店に修理を依頼してください。ア

イドリング調整を定期的に点検および修正してください。

スロットトリガーを放した後もカッティングブレードが短時間動き続けます－ランダウタイムに注意！

動作中はギアが熱くなります。ギアハウジングに触れないでください－火傷する危険があります！

滑りやすい場所、濡れた地面、雪、傾斜や凹凸のある地面などに注意してください－スリッパする危険があります！

落ちてきた枝や灌木および切りくずを片付けます。

切り株、根などの障害物に注意してください－つまづく危険があります！

しっかりと安定した足場を常に確保してください。

## 2.7.1 高所で作業する場合：

- － 常にリフトバケットを使用してください。
- － 決してはしごや枝に乗って作業しないでください。
- － 決して足場の不安定な場所で作業しないでください。
- － 決して手で作業しないでください。

イヤープロテクター（聴力保護具）を装着している場合は、より高い注意力が必要です－危険を告げる音（呼び声、警笛など）が聞こえにくくなります。

疲労が蓄積しないように、適切な時期に休息をとってください－事故の恐れがあります！

日中で十分な視界のある場所で、冷静かつ思慮深く作業してください。他人に危険が及ばないように慎重に作業します。



エンジン運転中は機械から有毒な排気ガスが出ます。このガスは、無臭で目に見えないことがあり、未燃焼の炭化水素とベンゼンを含んでいることがあります。室内や換気状態の悪い場所では、絶対にエンジンをかけないでください－触媒コンバータが装着されている機種でも同様です。

溝、くぼ地、あるいは狭い場所で作業する時には、適切な換気を確保してください－中毒による命の危険があります！

気分が悪い、頭痛、視覚障害（視野狭窄など）、聴覚障害、めまい、注意散漫などの状態になった場合は、作業を即座に中止してください－これらの症状は、作業場に過度に高濃度の排気ガスが存在する場合に発生することがあります－事故の恐れがあります！

パワーツールは最小限の音と排気ガスが出るように操作してください - 不必要にエンジンを始動せず、作業時のみエンジンを加速します。

パワーツールの使用中およびその近くでは喫煙しないでください - **火災の危険があります！** 燃料システムから発火しやすいガソリン蒸気が漏れている恐れがあります。

パワーツールに、設計強度を超える異常な負荷（激しい衝撃や落下など）がかかった場合は、パワーツールが操作の安全性を確保できる状態にあることを、作業を続ける前に必ず確認してください - 「始動前」の項目も参照してください。特に、燃料システムに漏れないことを確認し、安全装置が正しく機能していることを確認してください。お使いのパワーツールに損傷がある場合は、決して作業を続けしないでください。不明な点がある場合は、サービス店にご問い合わせください。

始動スロットル位置で操作をしないでください - このスロットルトリガーの位置ではエンジン回転を制御できません。

カッティングブレードが損傷しないように、生け垣や作業エリアを確認します：

- 石、金属部品や固形物を取り除いてください。
- 地面の近くで作業するときなど、カッティングブレードの間に砂や石が入らないようにしてください。
- ワイヤフェンスを使用している生垣の場合、カッティングブレードがワイヤーに触れないようにしてください。

通電用ケーブルに触れないようにしてください - 電気ケーブルを中断しないでください - **感電の恐れがあります！**



エンジンがかかっているときは、カッティングブレードに触れないようにしてください。カッティングブレードが物体でブロックされている場合、エンジンを直ちに停止します - まず物体を取り除きます - **ケガをする危険があります！**

カッティングブレードがブロックされ、同時にエンジンを加速させると負荷が増加し、エンジンの作動速度が減少します。これにより、クラッチが連続的にスリップして過熱状態になり、重要な機能部品（クラッチ、プラスチック製ハウジング部品など）の損傷につながります - その結果アイドリング時に動いているカッティングブレードなどによっても - **ケガをする危険があります！**

粉塵が多く発生する生け垣、または汚れの酷い生け垣では、必要に応じてカッティングブレードに STIHL 樹脂溶剤を吹き付けてください。これにより、ブレードの摩擦、植物の汁の侵食、汚れ粒の付着を大幅に軽減できます。

作業中に発生する塵埃は、健康を害する恐れがあります。塵埃が発生する場所では、防塵マスクを着用してください。

本機を離れる前にエンジンを停止してください。

カッティングブレードは、短い間隔で定期的に点検し、顕著な変化が生じた場合には直ちに点検してください：

- エンジンを停止します。
- カッティングブレードが停止するまで待ちます。
- 状態としっかり固定されているかどうかを確認し、ひび割れに注意します。
- 切れ味に注意します。

エンジンとマフラーには、常に灌木、木片、落ち葉や過剰な潤滑油が付着しないようにしてください - **火災の危険があります！**

## 2.8 作業後

パワーツールの埃や汚れを落とします - グリース溶剤は使用しないでください。

カッティングブレードに STIHL 樹脂溶剤を吹き付けます - スプレーが均一に塗布されるようにもう一度エンジンを短く始動します。

## 2.9 振動

チェンソーを長時間使用した場合には、振動の影響により手の血行不良が生じることがあります（「白ろく病」）。

以下をはじめ、多くの事柄が影響するため、一般的な使用時間の設定は不可能です。常に各国の安全規制、基準、条例をお守りください。

以下の対策をとると使用時間を延長できます：

- 手の防護（暖かい手袋）
- 休憩を取りながら作業する

以下の場合には使用時間を短くします：

- 血行不良の特殊体質（症状：指が頻繁に冷たくなる、指が疼く）。
- 低い外気温。
- ハンドルを握む力の強さ（握む力が強いと血行が低下します）。

機械を日常的に長時間使用したり、該当する症状（指のしびれ等）が繰り返し発症する時は、医師による診断をお薦めします。上記のいずれかの症状が現れたら（指が疼くなど）、医師にご相談ください。

## 2.10 整備と修理

定期的にも本機を整備してください。取扱説明書に書かれている整備や修理だけを行ってください。その他すべての作業はスチール サービス店に依頼してください。



当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみに依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

高品質の交換部品のみを使用して、事故およびパワーツールの損傷を回避してください。これに関して不明な点がある場合は、スチール サービス店へお問い合わせください。

当社ではスチール純正の交換部品のご使用をお勧めします。これらは、お客様の機種およびご使用になる性能要件に合わせて、特別に設計されています。

ケガの危険を回避するため、本機の保守、修理、または掃除を実行する前に、**エンジンを必ず切ってください**。 - 例外: キャブレターおよびアイドルリング回転数の調整時は例外です。

スパークプラグターミナルまたはスパークプラグを外した状態で、スターターを作動しないでください。火花を抑制できずに**火災が発生する可能性があります**。

**火災の危険性**を回避するため、火気の近くで修理したり、保管したりしないでください。

燃料フィルター キャップにもれがないか定期的に点検してください。

当社で承認されたタイプで、支障なく作動するスパークプラグだけを使用してください - 「技術仕様」の項を参照してください。

イグニッション ケーブルに異常がないこと(良好な絶縁状態、接続の確実性)を確認してください。

マフラーに異常が無いことを確認してください。

**火災の危険や聴覚障害**を避けるために、破損したマフラーを取付けたまま、あるいはマフラーがないまま作業しないでください。

高温のマフラーに触れて、**火傷**しないようにしてください。

振動の強さは、防振部品の状況に左右されます - 定期的に防振部点を点検してください。

## 3 本機の使い方

### 3.1 切断時期

生垣の切断に関する国と市町村の規則と規制を遵守してください。

他の人が休憩しているときに、パワーツールを使用しないでください。

### 3.2 切断の順序

最初に、太い枝を剪定ばさみまたはチェンソーで切断します。

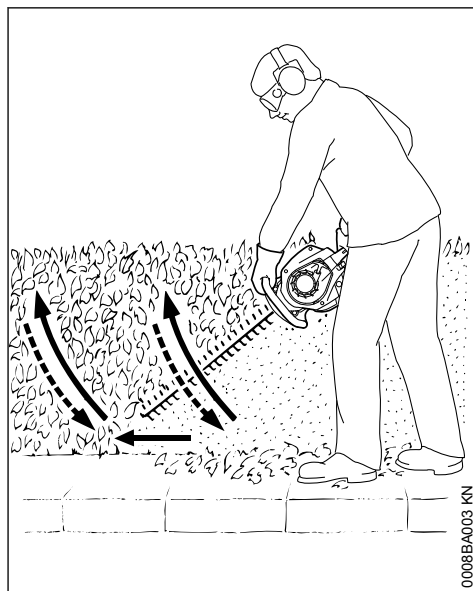
最初に生垣の両端を、次に上側を切断します。

### 3.3 廃棄

切断した枝は、家庭用ゴミ箱と一緒に捨てないでください - 堆肥にする可能性があります！

### 3.4 作業方法

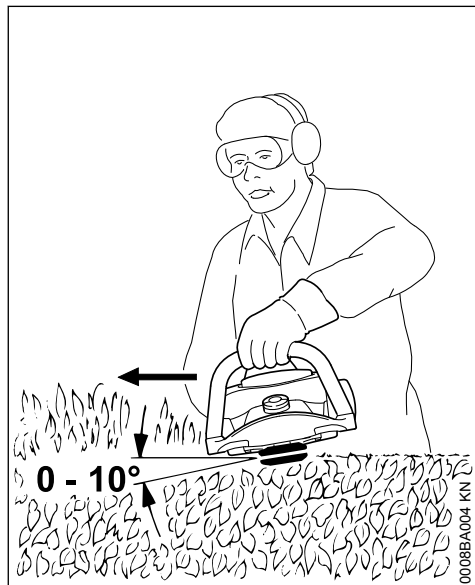
#### 3.4.1 垂直切断



カッティング ブレードを下から上へ円弧状に振り、ブレードの先端を下げて生垣に沿って移動し、再び上へ向けて円弧状に振ります。

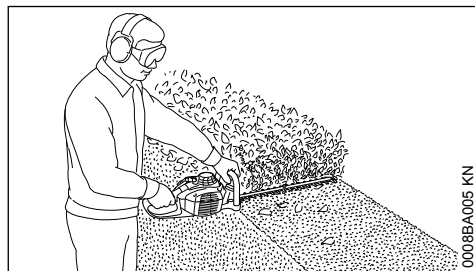
頭上の切断作業は、どの作業位置でも疲れます。事故が起きないように、そのような位置の作業は短時間に限ってください。

## 3.4.2 水平切断



ヘッジトリマーを水平に振る際に、カッターバーを  $0 - 10^\circ$  の角度に保持します。

切断した枝が地面に落ちるように、カッティングブレードを生垣の外側に向けて弓形に振ります。



生垣の幅が広い場合は、この手順を数回繰り返します。

## 4 燃料

エンジンには、ガソリンとエンジンオイルの混合燃料が必要です。



燃料に直接触れたり、ガソリンの気化ガスを吸い込んだりしないよう注意してください。

## 4.1 STIHL MotoMix (モトミックス)

STIHL 社では、STIHL MotoMix の使用をお勧めしています。このあらかじめ混合された燃料はベンゼンや鉛を含まず、高オクタン価を特徴とし、常に適切な混合比をもたらします。

STIHL MotoMix には、エンジン寿命を最長化するために STIHL HP Ultra 2 ストロークエンジンオイルが使用されています。

MotoMix は、販売されていない市場もあります。

## 4.2 燃料の混合

## 注記

仕様と異なる不適切な燃料や混合比を用いると、エンジンに重度の損傷が生じるおそれがあります。低品質のガソリンやエンジンオイルは、エンジン、ガスケット、燃料ライン、燃料タンクを損傷させることがあります。

## 4.2.1 ガソリン

オクタン価が 90 以上の**高品質ガソリン**だけを使用してください。無鉛、有鉛は問いません。

アルコール濃度が 10% を超えるガソリンは、手動調整可能キャブレター付きエンジンではエンジン性能を低下させるおそれがあるため、そうしたエンジンには使用しないでください。

M-Tronic 搭載エンジンは、アルコール濃度が 27% までのガソリン(E27)を使用して本来の性能を発揮します。

## 4.2.2 エンジンオイル

ご自身で燃料を混合する場合は、STIHL 2 ストロークエンジンオイルまたは JASO FB、JASO FC、JASO FD、ISO-L-EGB、ISO-L-EGC あるいは ISO-L-EGD に準拠する他の高性能エンジンオイルを使用してください。

機械が寿命に達するまでの全期間で排ガス基準が満たされるよう、STIHL 社では STIHL HP Ultra(ウルトラ) 2 ストロークエンジンオイルまたは同等の高性能エンジンオイルの使用を指定しています。

## 4.2.3 混合比率

1:50 の比率で STIHL 2 ストロークエンジン オイルとガソリンを混合してください (オイル 1 に対してガソリン 50)。



## 4.2.4 例

ガソリン量	STIHL 2 ストロークエ ンジンオイル 1:50
リットル	リットル (ml)
1	0.02 (20)
5	0.10 (100)
10	0.20 (200)
15	0.30 (300)
20	0.40 (400)
25	0.50 (500)

- ▶ 承認されている安全な燃料容器にオイルを注  
入してからガソリンを加え、完全に混ぜ合わせ  
ます。

## 4.3 混合燃料の保管

燃料は承認されている安全な燃料容器に入れ、乾  
燥して涼しく、安全な、照明や太陽光から保護さ  
れた場所に保管します。

**混合燃料は時の経過に伴って劣化します** - 数週  
間分の必要量だけを混合してください。混合燃  
料は 30 日以上保管しないでください。照明、太  
陽光、低温、高温にさらすと、混合燃料はより短  
期間で使用できなくなることがあります。

STIHL MotoMix は、問題なく最長 5 年間保管する  
ことができます。

- ▶ 混合燃料が入った容器(携行缶)をよく振ってか  
ら給油してください。



**警告**

携行缶の内圧が高まっている可能性があるため、  
キャップは慎重に開けてください。

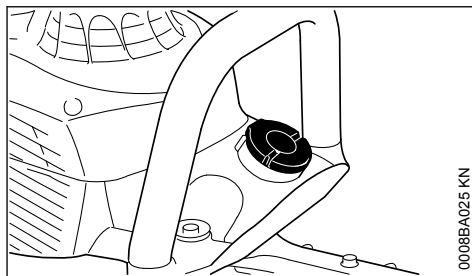
- ▶ 混合燃料を保管する燃料タンクや容器は、とき  
どき徹底的に清掃してください。

残存する燃料や清掃に使用した液体は、規制に  
従って環境に害を及ぼさないように廃棄してく  
ださい!

## 5 給油



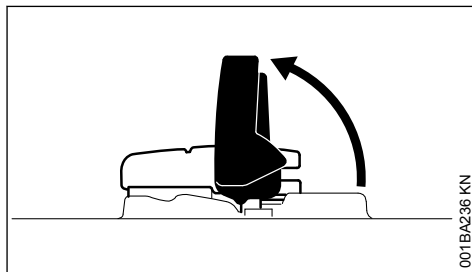
## 5.1 準備



0008BA025 KN

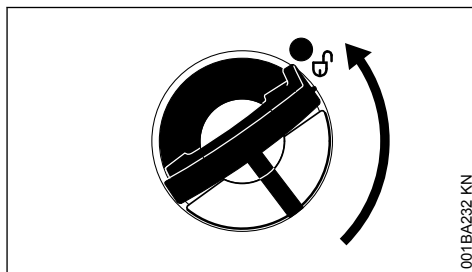
- ▶ 給油する前に、汚れがタンクの中に入るのを防  
ぐため、フィルター キャップとその周りをきれ  
いにしてください。
- ▶ タンクの注入口が上を向くように本機を置い  
てください。

## 5.2 キャップの開け方



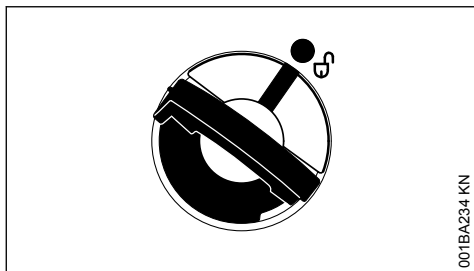
001BA236 KN

- ▶ グリップを垂直位置まで起こします。



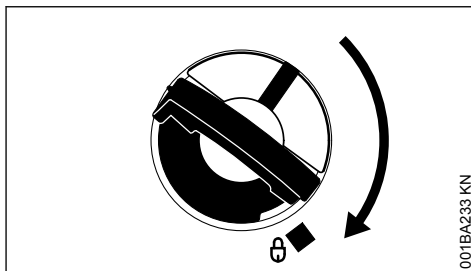
001BA232 KN

- ▶ キャップを反時計回りに回します (約 1/4 回  
転)。



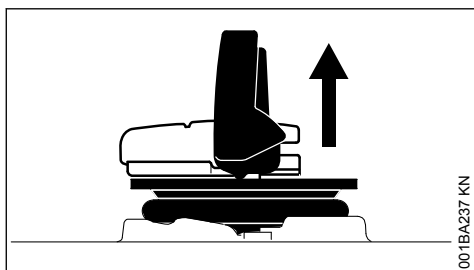
001BA234 KN

タンクキャップと燃料タンクのマークが合います。



001BA233 KN

▶ キャップを押し下げたまま時計回りに回し、所定の位置にはめ込みます。



001BA237 KN

▶ タンクキャップを取り外します。

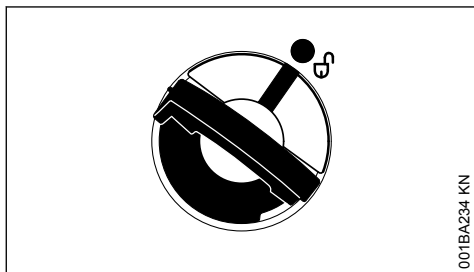
### 5.3 燃料の給油

給油時は、燃料をこぼしたり、あふれさせたりしないよう注意してください。

STIHL 社では、燃料用 STIHL フィラーノズル (特殊アクセサリ) の使用をお勧めしています。

▶ 燃料タンクに給油します。

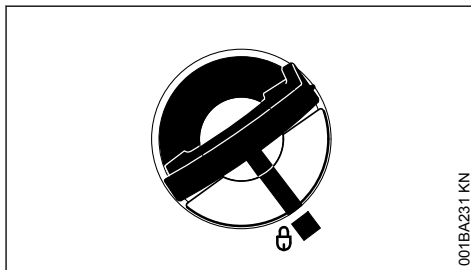
### 5.4 キャップの閉め方



001BA234 KN

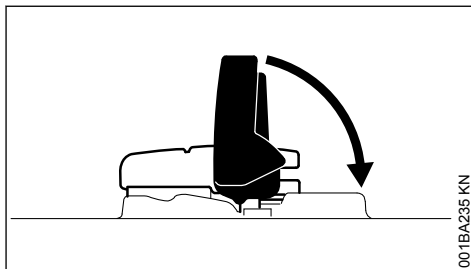
グリップを垂直位置に合わせます：

- ▶ キャップを取り付けます - タンクキャップと燃料タンクのマークを合わせてください。
- ▶ キャップを止まるまで押し下げます。



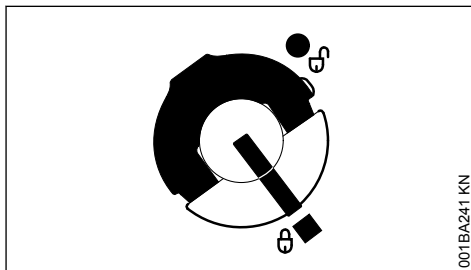
001BA231 KN

タンクキャップと燃料タンクのマークが合います。



001BA235 KN

▶ グリップを倒します。

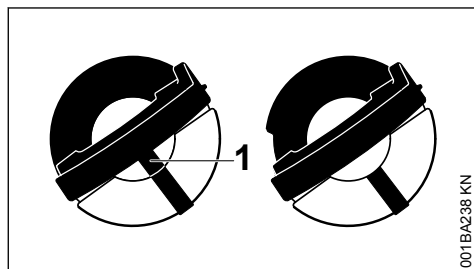


001BA241 KN

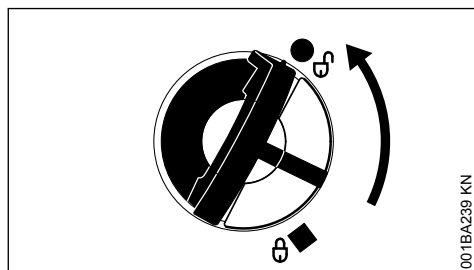
タンクキャップがロックされます。

## 5.5 タンクキャップを燃料タンク開口部にロックできない場合

- キャップ下部が上部に対してねじれています。
- ▶ 燃料タンクからキャップを外し、上から見て点検します。



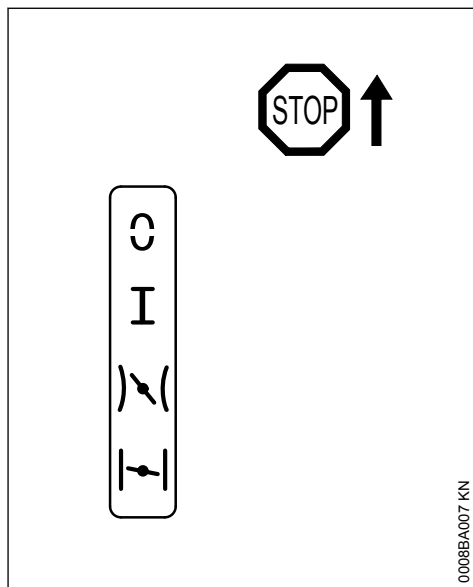
- 左側： キャップ下部がねじれています - 内側マーク (1) が外側マークに合っています。
- 右側： 適切な位置のキャップ下部 - 内側マークがグリップの下にあります。外側マークとは合っていません。





- ▶ キャップを開口部に取り付け、フィラーネックにかみ合うまでキャップを反時計回りに回します。
- ▶ キャップをさらに反時計回りに回します (約 1/4 回転) - キャップ下部が正しい位置に合います。
- ▶ キャップを時計回りに回し、所定位置にロックします - 「キャップの閉め方」の項を参照。


## 6 エンジンの始動と停止


### 6.1 マスターコントロールレバーの位置および機能



**STOP** または  - マスターコントロールレバーを **STOP** または  の方向に押し、イグニッションをオフにします。マスターコントロールレバーは、放すと、通常運転位置 I に戻り、イグニッションは再びオンになります。

**通常運転の位置 I** - エンジンが作動しているか始動可能な状態。

**始動スロットル**  - エンジンが暖まっている時は、この位置で始動します。スロットルトリガーを握ると、マスターコントロールレバーは通常運転位置 I に移動します。

**チョークシャッター閉**  - エンジンが冷えている時は、この位置で始動します。スロットルトリガーを握ると、マスターコントロールレバーは通常運転位置 I に移動します。

### 6.2 マスターコントロールレバーの設定

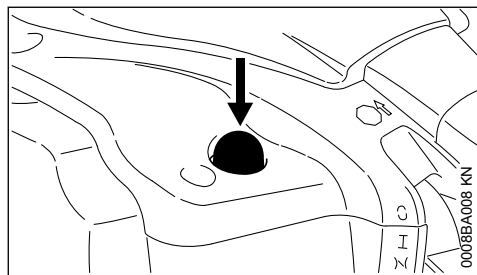
マスターコントロールレバーを通常運転の位置 (I) からチョーク閉 (ト) に移動するには、スロットルトリガー ロックアウトとスロットルトリガーを同時に握り、その位置で保持します - これでマスターコントロールレバーを設定します。

始動スロットル位置 **Ⅱ** を選択するには、まずマスターコントロールレバーをチョーク閉 **Ⅰ** に移動し、次に始動スロットル位置 **Ⅱ** にします。

スロットルトリガー ロックアウトを押し込み、同時にスロットルトリガーを軽く引くと、マスターコントロールレバーが始動スロットル位置 **Ⅱ** またはチョーク閉位置 **Ⅰ** から通常運転位置 **Ⅲ** に移動します。

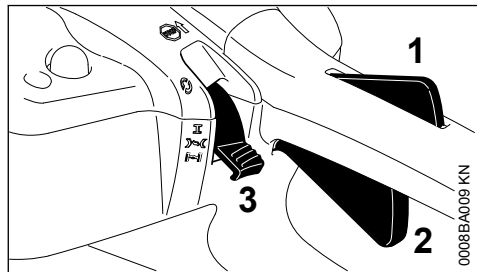
エンジンをオフにするには、マスターコントロールレバーを **STOP** または **○** の方向に移動します - マスターコントロールレバーは放すと、通常運転位置 **Ⅲ** に戻ります。

## 6.3 エンジンの始動。



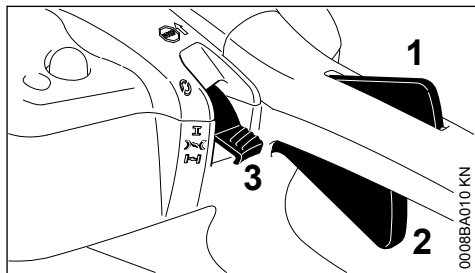
- ▶ 手動燃料ポンプを最低 5 回押してください - ポンプに燃料が充填されている場合でも、同様の操作を行います。
- ▶ マスターコントロールレバーを、エンジン温度に合わせてセットします。

### 6.3.1 冷機エンジン (冷機スタート)



- ▶ スロットルトリガー ロックアウト (1) とスロットルトリガー (2) を同時に握って、そのまま保持します。
- ▶ マスターコントロールレバー (3) を **Ⅱ** に移動します。
- ▶ スロットルトリガー ロックアウト (1)、スロットルトリガー (2) およびマスターコントロールレバーを放します。

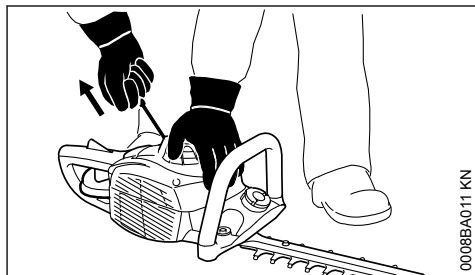
### 6.3.2 暖機エンジン (暖機スタート)



- ▶ スロットルトリガー ロックアウト (1) とスロットルトリガー (2) を同時に握って、そのまま保持します。
- ▶ マスターコントロールレバー (3) を **Ⅱ** に移動します。
- ▶ スロットルトリガー ロックアウト (1)、スロットルトリガー (2) およびマスターコントロールレバーを放します。

エンジンの始動後、温まりきっていない場合もこの位置に移動します。

## 6.4 始動



- ▶ 機械を地面に置きます。
- ▶ ブレード鞘 (カバー) を取り外します。カッティングブレードが地面やその他の物体と接触していないことを確認します。
- ▶ 安全と安定した足場に配慮してください。
- ▶ 左手をファンハウジングに当てて機械をしっかり保持し、地面に押しつけます。
- ▶ 右手でスターターグリップを握ります。

### 6.4.1 エルゴスタートなしの機種

- ▶ スターターグリップをゆっくり引き、かみ合った感じがしたら、素早く勢い良くグリップを引っ張ります。

## 注記

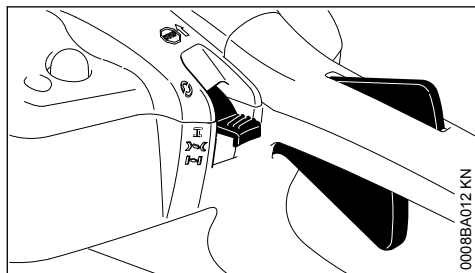
スターター ロープは最後まで引き出さないでください - 切れる恐れがあります。

- ▶ スターター グリップを急に放さないでください。手を添えてハウジングにゆっくりと巻き込むとスターター ロープは正しく巻き込まれます。

## 6.4.2 エルゴスタート付き機種

- ▶ スターター グリップを徐々に引きます。

## 6.5 エンジンがかかったらすぐに



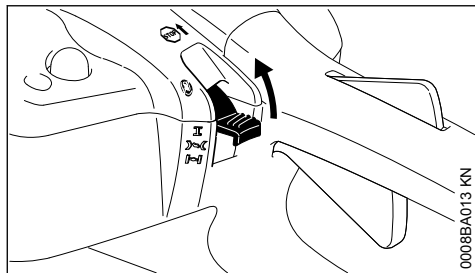
- ▶ スロットルトリガー ロックアウトを押し下げて、スロットルを開きます - マスターコントロールレバーが通常運転位置 I に移動します。冷機スタートの後では、スロットルを数回開いてエンジンを暖めます。

## 警告

キャブレターが適正に調整されていることを確認します。エンジンのアイドリング回転時に、カッティングアタッチメントが回転しないようにしてください。

これで機械の使用準備が完了しました。

## 6.6 エンジンの停止



- ▶ マスターコントロールレバーを **STOP** または 0 の方向に移動します - マスターコントロールレバーは放すと、通常の運転位置 I に戻ります。

## 6.7 始動に関するその他の注意事項

## 6.7.1 エンジンが冷機スタート位置 I または加速時に停止する

- ▶ マスターコントロールレバーを I に移動して、エンジンがかかるまで始動動作を繰り返します。

## 6.7.2 エンジンが暖機スタート位置 I でかからない。

- ▶ マスターコントロールレバーを II に移動して、エンジンがかかるまで始動動作を繰り返します。

## 6.7.3 エンジンがかからない場合

- ▶ すべてが正しくセットされていることを確認します。
- ▶ 燃料タンク内を確認して、必要な場合給油します。
- ▶ スパークプラグターミナルが適正に接続されているか確認します。
- ▶ 始動手順を繰り返します。

## 6.7.4 燃料タンクが完全に空になった場合

- ▶ 再給油したら、手動燃料ポンプに燃料が充填されている場合でも、燃料ポンプを最低 5 回押してください。
- ▶ マスターコントロールレバーを、エンジン温度に合わせてセットします。
- ▶ エンジンを始動します。

## 7 作業中の注意事項

## 7.1 ならし運転

新品の機械は、最初の燃料 3 タンク分の間は、高速回転(無負荷でフルスロットル)で運転しないでください。これでならし運転中の不要な高負荷を避けます。すべての動く部品は、ならし運転中になじんでくるので、この期間はエンジンの摩擦抵抗が大きくなっています。エンジンの最高出力を発揮できるのは、タンク 5~15 回分の使用後となります。

## 7.2 作業中

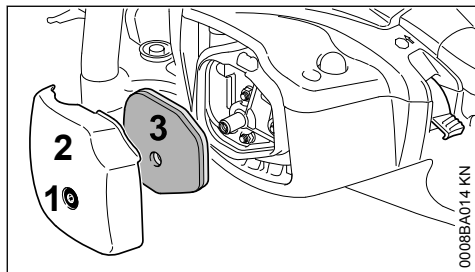
長時間のフルスロットル運転後は、しばらくの間アイドリングしてエンジンの熱を冷却風で放熱してください。組み込まれている部品(イグニッションやキャブレター)を熱から守るためです。

## 7.3 作業後

短期間使用しない場合：エンジンが冷えるまで待ちます。燃料タンクを空にして、次の使用時まで火気のない乾燥した状態で保管します。長期間に未使用の場合は、「機械の保管」を参照してください。

## 8 エアフィルターの掃除

### 8.1 エンジンの出力が著しく低下した場合

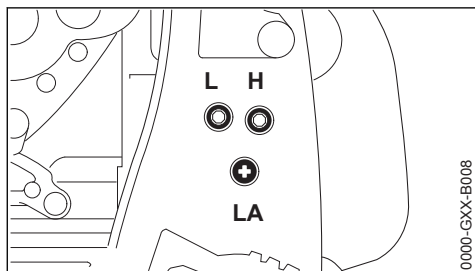


- ▶ キャブタイプ スクリュー (1) を緩め、フィルター カバー (2) を取り外します。
- ▶ フィルターの周りに付着した汚れを取り除きます。
- ▶ フィルター エレメント (3) を取り外します。
- ▶ 新しいフィルター エレメントを取り付けます。補助的な方法として、手の平で叩くか、エアで汚れを吹き飛ばします。洗わないでください。
- ▶ 損傷した部品は交換してください。
- ▶ フィルター エレメント (3) を取り付けます。
- ▶ フィルター カバー (2) を取り付け、しっかり締め付けます。

## 9 キャブレターの調整

キャブレターは、大抵の運転条件下で混合気が最適化されるよう工場出荷時に設定されています。

### 9.1 アイドリング回転数の調整



- ▶ エンジンをかけ、暖機します。

#### 9.1.1 アイドリング中にエンジンガストールする

- ▶ カuttingブレードが回転し始めるまでアイドリングスピード調整スクリュー(LA) を時計回りにまわした後、約 1 回転戻します。

#### 9.1.2 アイドリング中にカuttingブレードが回転する

- ▶ カuttingブレードが停止するまでアイドリングスピード調整スクリュー (LA) を反時計回りにまわした後、さらに約 1 回転、同じ方向にまわします。



**警告**

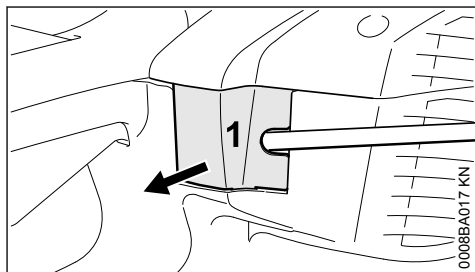
エンジンのアイドリング回転時にカuttingブレードが動き続ける場合、サービス店にパワーツールの点検と修理を依頼してください。

## 10 スパーク プラグの点検

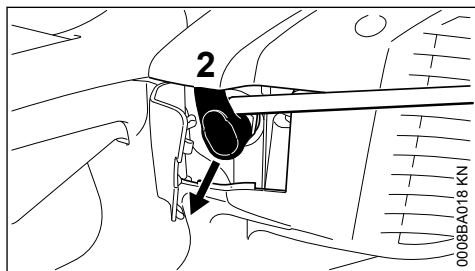
- ▶ エンジンの出力が低下したり、始動しにくくなったりアイドリングが不安定になったら、先ずスパーク プラグを点検してください。
- ▶ 約 100 時間運転後には新品のスパークプラグと交換してください - 電極が極度に焼損している場合はそれよりも早く交換してください。スチール社が承認した、雑音防止スパークプラグのみをご使用ください - 「技術仕様」の項を参照してください。

### 10.1 スパーク プラグの取り外し

- ▶ エンジンの停止



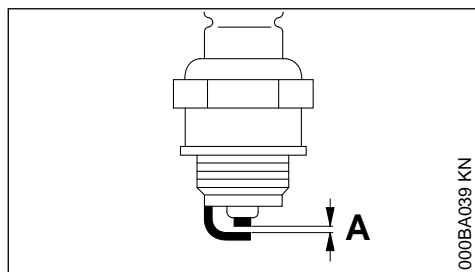
- ▶ 適切なツール (コンビネーションレンチなど) を使用してフラップ (1) を慎重にこじ開けます。



- ▶ 適切なツール (コンビネーションレンチなど) を使用してスパーク プラグ ターミナル (2) を取り外します。
- ▶ スパーク プラグを緩めます。



## 10.2 スパークプラグの点検

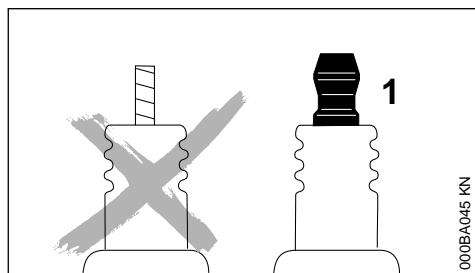


000BA039 KN

- ▶ 汚れたスパークプラグをきれいにします。
- ▶ 電極ギャップ(A)を点検して、必要場合は調整します- 数値は「技術仕様」の項を参照してください。
- ▶ 以下のような、スパークプラグが汚れる原因を排除してください。

原因：

- エンジンオイル混合量の過多
- エアフィルターの汚れ
- 劣悪な使用環境



000BA045 KN



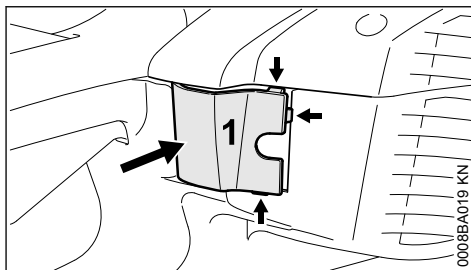
**警告**

アダプターナット (1) が緩んでいるか、外れている場合はアークが発生することがあります。発火または爆発が起きやすい環境下で作業を行うと、実際の火災または爆発が発生する恐れがあります。この場合、作業員が重傷を負ったり、建物に損傷を与えたりする可能性があります。

- ▶ 抵抗入タイプのスパークプラグを使用し、アダプターナットをしっかりと締め付けてください。

## 10.3 スパークプラグの取り付け

- ▶ 手でスパークプラグを差し込み、ねじ込みます。
- ▶ スパークプラグを締め付けます。
- ▶ スパークプラグターミナルをしっかりとスパークプラグに押し付けます。



0008BA019 KN

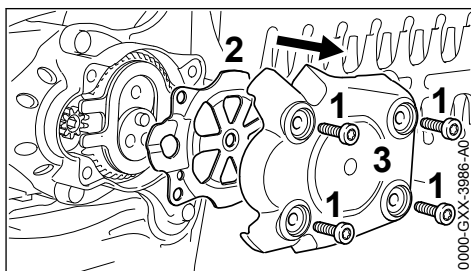
- ▶ 最初にフラップ (1) の上部を閉じてから、下部を閉じます。タブ口(矢印)を所定位置にはめてください。

## 11 ギヤボックスの注油

### 11.1 業務用のみ - 25 運転時間毎に点検します

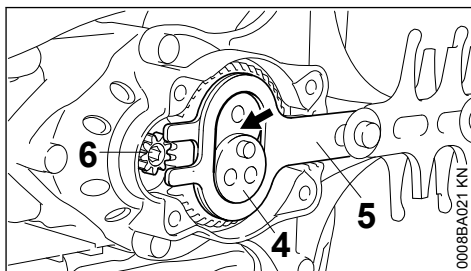
#### 11.1.1 HS 46

ヘッジトリマー用 STIHL ギヤグリス (特殊アクセサリ) を使用してブレードドライブギアを潤滑します。



0000-GXX-3986-A0

- ▶ 本機の下側からスクリー (1) を取り外します。
- ▶ 固定プレート (2) とギヤボックスカバー (3) を取り外します。

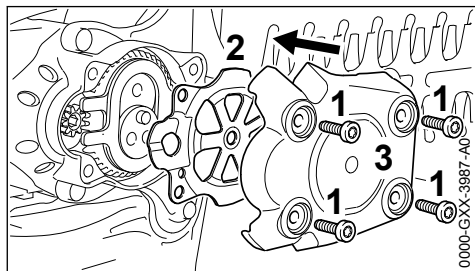


0008BA021 KN

- ▶ 六角レンチでドライブピニオン (6) を回転させながら、カム (4) とカッティングブレード (5) の間のギアボックスハウジング (矢印) にグリースを一度に少量 (最大 5 g (1/5 oz)) ずつ均一に塗布します - カッティングブレードと接触しないよう注意してください。

### 注記

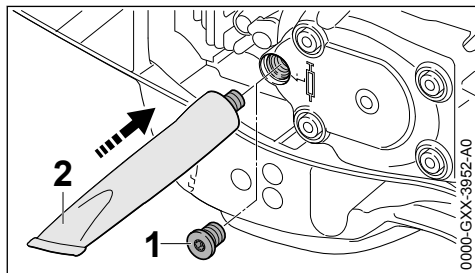
ギアボックスいっぱいにはグリースを注入しないでください。



- ▶ ギアボックスハウジングとぴったり重なるように固定プレート (2) を取り付けます。
- ▶ ギアボックスカバー (3) を取り付け、スクリュー (1) を挿入し、しっかりと締め付けます。

### 11.1.2 HS 56

ヘッジトリマー用 STIHL ギアグリース (特殊アクセサリ) を使用してブレードドライブギアを潤滑します。



- ▶ スクリュープラグ (1) を緩めて取り外します。スクリュープラグ内側にグリースが見えない場合は、STIHL ギアグリースのチューブ (2) (特殊アクセサリ) を注入口にねじ込みます。
- ▶ 最大 5 g (1/5 oz) のグリースをギアボックスに注入します。

### 注記

ギアボックスいっぱいにはグリースを注入しないでください。

- ▶ グリースチューブを注入口から外します。

- ▶ スクリュープラグを取り付け、しっかりと締め付けます。

## 12 機械の保管

機械を約 30 日以上使用しない場合

- ▶ カッティングブレードを洗浄し、状態を確認してから STIHL 樹脂溶剤を吹き付けてください。
- ▶ 換気の良い場所で燃料タンクを空にし、洗浄します。
- ▶ 燃料は、地域の環境規制に従って処分してください。
- ▶ 手動燃料ポンプが装着されている場合: 手動燃料ポンプを最低 5 回押してください。
- ▶ エンジンを始動し、エンジンが停止するまでアイドリングを続けます。
- ▶ ブレード鞘を取り付けます。
- ▶ 特にシリンダーフィンやエアフィルターに注意して、機械を丁寧に清掃してください。
- ▶ ハンドルに統合されたリングフックを使用して、機械を乾燥した安全な場所に保管してください。(子供など) 承認されていない人が使用しないように確保してください。

## 13 目立ての注意事項

切れ味や切れ具合が悪くなって、ブレードが頻繁に枝に挟まる場合: カッティングブレードを再目立てします。

カッティングブレードは、整備工場の目立て機を使用してサービス店で目立てされることをお勧めします。スチールではスチール サービス店をお勧めします。

クロスカット平ヤスリもご使用いただけます。目立てやすりを所定の角度で握ります (「技術仕様」を参照)。

- ▶ カッター先端のみを目立てします - カッティングブレードの尖っていない突き出た部分やカッティングブレードガード (「主要構成部品」を参照) にやすりをかけないでください
- ▶ 常にカッティング エッジに向かって目立てします。
- ▶ ヤスリは前方ストロークのみで目立てをします - 後方ストロークのときは、ヤスリをブレードから離します。
- ▶ 砥石でカッティング エッジのバリを取り除きます。
- ▶ 削る量は、できるだけ少なくしてください。
- ▶ 目立て後、カッティング ブレードに残ったヤスリやグラインダーの切削粉を除いて、スチール樹脂溶剤を吹き付けてください。

注記
----

切れ味が悪いカッティング ブレードや傷んでいるカッティング ブレードが装着されている機械で、作業しないでください。機械の過負荷の原因となり、切断状態も十分でなくなることがあります。

## 14 整備表

以下の整備間隔は、標準的な作業条件用です。毎日の作業時間が長い、作業条件が過酷な場合(粉塵が極端に多い場所等)は、それに応じて指定された間隔を短くしてください。		毎 日 作 業 後 の 作 業 終 了 後 の 作 業	毎 週 作 業 後 の 作 業	毎 月 作 業 後 の 作 業	毎 年 作 業 後 の 作 業	12 ヵ 月 毎 年 作 業 後 の 作 業	時 間 毎 時 間 作 業 後 の 作 業	時 間 毎 時 間 作 業 後 の 作 業	合 計 の 作 業 後 の 作 業
機械本体	目視検査 (状態と漏れ)	X		X					
	清掃		X						
コントロールハンドル	作動点検	X		X					
エアフィルター	清掃						X		X
	交換							X	
手動燃料ポンプ (装着されている場合)	点検	X							
	修理はサービス店に依頼してください <sup>1)</sup>							X	
燃料タンク内のピックアップボディ	点検はサービス店に依頼してください <sup>1)</sup>						X		
	交換はサービス店に依頼してください <sup>1)</sup>					X		X	X
燃料タンク	清掃						X		X
キャブレター	アイドリング調整の点検	X		X					
	アイドリング再調整								X
スパークプラグ	電極ギャップの再調整						X		
	100 運転時間毎に交換								
冷却風吸入部	目視検査		X						
	清掃								X
すべての手の届くスクリーンとナット (調整スクリーンを除く)	締め直し								X
防振エレメント	目視検査	X							
	交換はサービス店に依頼してください <sup>1)</sup>						X	X	
カッティングブレード	清掃		X						
	目立て <sup>1)</sup>								X
	目視検査	X							
	交換はサービス店に依頼してください <sup>1)</sup>							X	

以下の整備間隔は、標準的な作業条件用です。毎日の作業時間が長い、作業条件が過酷な場合(粉塵が極端に多い場所等)は、それに応じて指定された間隔を短くしてください。		推奨整備作業	日毎または毎10時間毎に必ず実施する作業	並行整備作業	週毎	毎月	12ヵ月毎	故障時	整備時	必要な場合
ギアボックスの潤滑	業務用のみ - 運転 25 時間毎に点検し、必要に応じて STIHL ギアグリースを補充してください									
安全ラベル	交換								X	
1)STIHL 社では、STIHL サービス店の利用をお勧めしています										

## 15 磨耗の低減と損傷の回避

本取扱説明書の記述を遵守して使用すると、機械の過度の磨耗や損傷が回避されます。

本機の使用、整備並びに保管は、本取扱説明書の記述に従って入念に行ってください。

特に以下の場合のように、安全に関する注意事項、取扱説明書の記述内容及び警告事項に従わずに使用したこと起因する全ての損傷については、ユーザーが責任を負います：

- スチールが許可していない製品の改造。
- 当製品への適用が承認されていない、適していない、または低品質のツールやアクセサリを使用。
- 指定外の目的に当製品を使用。
- スポーツ或いは競技等の催し物に当製品を使用。
- 損傷部品を装備したままで当製品を使用したことから生じる派生的損傷。

### 15.1 整備作業

「整備表」に列記されている作業は、必ず全て定期的に行ってください。整備作業を使用者が自ら行えない場合は、サービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみに依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

上記整備作業を怠ったことが原因で生じた以下のような損傷に対しては、上記の例として、以下の部品が挙げられます：

- 指定された時期に実施されなかった整備や不十分な整備(例：エア フィルター、燃料フィルター)、不適切なキャブレターの調整または不十分な冷却空気経路の掃除(エア吸入スリ

ット、シリンダー フィン)が原因で生じたエンジンの損傷。

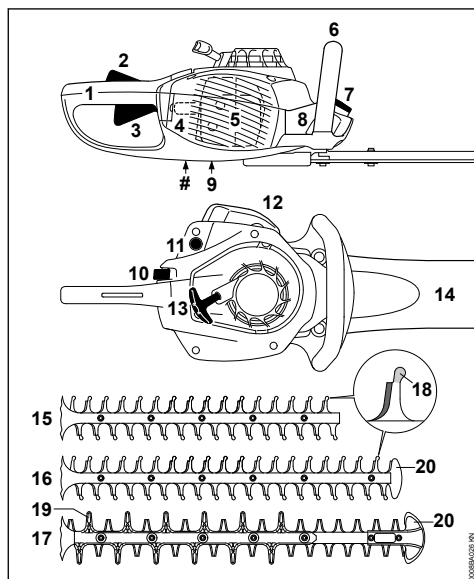
- 不適切な保管に起因する腐食およびその他の派生的損傷。
- 低品質の交換部品を使用したことによる本機の損傷。

### 15.2 磨耗部品

刈払機の部品によっては、規定通りに使用しても通常の磨耗は避けられません。これらの部品は、使用の種類や期間に合わせて適時に交換してください。上記の例として、以下の部品が挙げられます：

- カutting ブレード
- クラッチ
- フィルター (エア フィルター、燃料フィルター)
- リワインドスターター
- スパーク プラグ
- 防振システムのコンポーネント

## 16 主要構成部品



- 1 コントロール ハンドル
  - 2 スロットル トリガー ロックアウト
  - 3 スロットル トリガー
  - 4 スパーク プラグ ターミナル
  - 5 マフラー
  - 6 前ハンドル
  - 7 燃料タンク キャップ
  - 8 燃料タンク
  - 9 キャブレター調整スクリュー
  - 10 マスター コントロール レバー
  - 11 手動燃料ポンプ
  - 12 フィルター カバー
  - 13 スターター グリップ
  - 14 ブレード鞘 (カバー)
  - 15 カutting ブレード (HS 46)
  - 16 カutting ブレード (HS 46 C)
  - 17 カutting ブレード (HS 56 C)
  - 18 先端が丸い突起部分 (統合カッター ガード)
  - 19 カッター ガード
  - 20 チップ ガード
- # 機械番号

## 17 技術仕様

### 17.1 エンジン

STIHL 単気筒 2 ストロークエンジン

排気量:	21.4 cc
シリンダー径:	33 mm
ピストンストローク:	25 mm
ISO 7293 に準拠したエンジン出力:	0.65 kW (0.9 HP)、
アイドリング回転数:	8,700 rpm 時
回転数制御範囲:	2,750 rpm
	9,300 rpm

### 17.2 イグニッションシステム

エレクトロニックマグネットイグニッション

スパークプラグ (抵抗入タ イプ):	NGK CMR6H、BOSCH
電極ギャップ:	USR4AC
	0.5 mm

### 17.3 燃料システム

燃料ポンプ付き全方向ダイヤフラム式キャブレター

燃料タンク容量:	280 cc (0.28 l)
----------	-----------------

### 17.4 カutting ブレード

#### 17.4.1 HS 46

双方向、片面研磨	
水平目立て角度:	35°
歯間スペース:	30 mm
ストローク速度:	3,600 /min
ブレード長:	450 mm

#### 17.4.2 HS 46 C

双方向、片面研磨	
水平目立て角度:	35°
歯間スペース:	30 mm
ストローク速度:	3,600 /min
ブレード長:	550 mm

#### 17.4.3 HS 56 C

双方向、両面研磨	
水平目立て角度:	45°
歯間スペース:	34 mm
ストローク速度:	3,600 /min
ブレード長:	600 mm

### 17.5 重量

カuttingアタッチメント付き一式、燃料なし

#### 17.5.1 HS 46

450 mm ブレード:	4.0 kg
--------------	--------

#### 17.5.2 HS 46 C

550 mm ブレード:	4.3 kg
--------------	--------

#### 17.5.3 HS 56 C

600 mm ブレード:	4.5 kg
--------------	--------

## 17.6 騒音・振動数値

音響値・振動値は、アイドリング回転数と最大定格回転数の比率 1 : 4 で測定したものです。

振動に関する事業主への指令 2002/44/EC の遵守の詳細については、

[www.stihl.com/vib](http://www.stihl.com/vib) をご覧ください。

### 17.6.1 ISO 22868 に準拠した音圧レベル $L_{p,q}$

HS 46:	95 dB(A)
HS 46 C:	95 dB(A)
HS 56 C:	95 dB(A)

### 17.6.2 ISO 22868 に準拠した音響パワーレベル $L_w$

HS 46:	107 dB(A)
HS 46 C:	107 dB(A)
HS 56 C:	107 dB(A)

### 17.6.3 ISO 22867 に準拠した振動値 $a_{hv,eq}$

#### HS 46

左ハンドル:	4.5 m/s <sup>2</sup>
右ハンドル:	4.9 m/s <sup>2</sup>

#### HS 46 C

左ハンドル:	4.5 m/s <sup>2</sup>
右ハンドル:	4.9 m/s <sup>2</sup>

#### HS 56 C

左ハンドル:	4.7 m/s <sup>2</sup>
右ハンドル:	5.5 m/s <sup>2</sup>

指令 2006/42/EC に準拠した K-係数は、音圧レベルおよび音響出力レベルについて 2.0 dB(A) です。指令 2006/42/EC に準拠した K-係数は、振動加速度について 2.0 m/s<sup>2</sup> です。

## 17.7 REACH

REACH は EC の規定で、化学物質 (CHemical substances) の登録 (Registration)、評価 (Evaluation)、認可 (Authorisation)、規制を意味します。

REACH 規定 (EC) No.1907/2006 の遵守の詳細については、以下をご覧ください。

[www.stihl.com](http://www.stihl.com)

## 17.8 排気ガス

EU 型式認定手順で測定された CO<sub>2</sub> 値は、以下に記載されています -

[www.stihl.com/co2](http://www.stihl.com/co2)

(製品ごとの技術データ)。

CO<sub>2</sub> 測定値は、代表的なエンジンを実験室の環境下で標準的な試験手順に従って測定した結果で

あり、特定のエンジンの性能を明示的、暗示的に保証する数値ではありません。

適用される排気ガス規制の要件は、本書に記載されている方法で機械を使用し、整備することによって満たされます。いかなる方法であれエンジンを改造すると、使用許可は無効になります。


## 18 整備と修理

本機を使用する方が実施できる保守および整備作業は、本取扱説明書に記述されていることだけです。それ以外の修理はすべてサービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみに依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

修理時には、当社が本機への使用を承認した、または技術的に同等な交換部品だけをご使用ください。高品質の交換部品のみを使用して、事故および本機の損傷を回避してください。

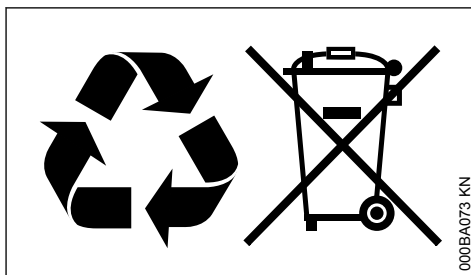
当社ではスチール オリジナルの交換部品のご使用をお勧めします。

スチール純正部品には、スチール部品番号、**STIHL** ロゴマークおよびスチール部品シンボル マーク  が刻印されています。(小さな部品では、シンボルマークだけが刻印されているものもあります。)

## 19 廃棄

廃棄に関する情報については、最寄りの行政機関または STIHL サービス店へお問い合わせください。

不適切な廃棄は、健康被害や環境汚染の原因になるおそれがあります。



- ▶ 現地の規制に従い、パッケージを含む STIHL 製品を適切な回収場所へ持ち込み、リサイクルしてください。
- ▶ 家庭ごみと共に廃棄しないでください。



## 20 EC 適合証明書

ANDREAS STIHL AG & Co. KG  
Badstr. 115  
D-71336 Waiblingen

Germany (ドイツ)

は、単独の責任において下記の製品が

モデル:	ヘッジトリマー
製造ブランド:	STIHL
タイプ:	HS 46
	HS 46 C
	HS 56 C
シリアル番号:	4242
排気量:	21.4 cm <sup>3</sup>

指令 2011/65/EU、2006/42/EC、2014/30/EU、2000/14/EC の関連する条項に適合しており、以下の規格のそれぞれ製造時点で有効であった版に準拠して開発および製造されたことを保証いたします:

EN ISO 10517、EN 55012、EN 61000-6-1

音響出力レベルは、測定値並びに保証値共に、指令 2000/14/EC の付属書 V の規定、および ISO 11094 基準に従って決定されています。

### 音響出力レベル測定値

105 dB(A)

### 音響出力レベル保証値

107 dB(A)

技術文書の保管:

ANDREAS STIHL AG & Co. KG  
Produktzulassung

製品の製造年と機械番号は、機械本体に表示されています。

2021 年 7 月 15 日、Waiblingen にて発行

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

代理人



Dr. Jürgen Hoffmann

製品認可・規制部長



## 21 UKCA 適合宣言

ANDREAS STIHL AG & Co. KG  
Badstr. 115

0458-447-4321-D

D-71336 Waiblingen

Germany (ドイツ)

は、単独の責任において下記の製品が

モデル:	ヘッジトリマー
製造ブランド:	STIHL
タイプ:	HS 46
	HS 46 C
	HS 56 C
シリアル番号:	4242
排気量:	21.4 cm <sup>3</sup>

英国規則 The Restriction of the Use of Certain Hazardous Substances in Electrical and Electronic Equipment Regulations 2012、Supply of Machinery (Safety) Regulations 2008、Electromagnetic Compatibility Regulations 2016、Noise Emission in the Environment by Equipment for use Outdoors Regulations 2001 の関連する条項に適合しており、製造日時点で有効であった以下の規格のバージョンに準拠して開発および製造されたことを保証いたします:

EN ISO 10517、EN 55012、EN 61000-6-1

音響出力レベルの測定値および保証値は、ISO 11094 規格を適用の下、英国規則「Noise Emission in the Environment by Equipment for use Outdoors Regulations 2001, Schedule 8V」に準拠して算出しています。

### 音響出力レベル測定値

105 dB(A)

### 音響出力レベル保証値

107 dB(A)

技術文書の保管:

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

製品の製造年と機械番号は、機械本体に表示されています。

2021 年 7 月 15 日、Waiblingen にて発行

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

代理人



Dr. Jürgen Hoffmann

製品認可・規制部長







[www.stihl.com](http://www.stihl.com)



0458-447-4321-D



0458-447-4321-D